

千葉県感染症発生動向調査情報

2024年 第29週 (7/15-7/21) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	定点	29週	28週	27週	26週	
	小児科	18	18	18	18	
	眼科	5	5	5	5	
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数	*インフル/COVID	28	28	28	28	*正式名称は インフルエンザ/COVID-19定点
「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	基幹	1	1	1	1	

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			7/15-7/21	7/8-7/14	7/1-7/7	6/24-6/30	7/8-7/14
			29週	28週	27週	26週	28週
小児科	RSウイルス感染症		3	4	5	6	57
	咽頭結膜熱		2	8	9	6	71
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓↓	23	32	58	48	543
	感染性胃腸炎	↓↓	83	95	129	123	630
	水痘		0	6	1	0	47
	手足口病	★★★↓↓	357	489	411	211	2106
	伝染性紅斑		1	2	2	6	18
	突発性発しん		7	7	5	4	34
	ヘルパンギーナ	↓↓	46	85	65	40	458
	流行性耳下腺炎		0	1	1	4	8
*インフル/COVID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		5	3	5	1	79
	新型コロナウイルス感染症	◎	232	187	158	118	2,567
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		2	0	2	0	19
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		1	0	0	0	1
	無菌性髄膜炎		0	0	0	1	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

「流行中」 流行発生警報開始基準値以上

「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 0 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
-	-	-	-	-	-	-	-

・第29週は、発生届がなかった。

定点当たり報告数 第29週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.28となった。過去10年の同時期と比べるとやや少なく、年齢階級別の報告数は10歳未満では9歳が最多。区別では、稲毛区及び緑区(2.33)からの報告が最多で稲毛区では3歳及び7歳、緑区では9歳の報告が最も多かった。

<感染性胃腸炎>

前週より減少し4.61となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルで、年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、若葉区(12.50)からの報告が最多で1歳の報告が最も多かった。

<手足口病>

前週より減少し19.83となったが、流行発生警報開始基準値(5.0)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、全区で流行発生警報開始基準値を上回り、若葉区(33.00)からの報告が最多で1歳の報告が最も多かった。

<ヘルパンギーナ>

前週より減少し2.56となった。過去10年の同時期と比べると少なめで、年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、緑区(7.00)が流行発生警報開始基準値(6.0)を上回り最多で1歳の報告が最も多かった。他に若葉区(5.00)が流行発生警報終息基準値(2.0)を上回った。

<新型コロナウイルス感染症>

前週より増加し8.29となり、昨年同時期(8.96)とほぼ同じとなった。年齢階級別の報告数は40歳代が最多。区別では、美浜区(16.83)からの報告が最多で40歳代の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2024.pdf>

・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2024.pdf

■ トピック ■

<新型コロナウイルス感染症>

2024年第28週現在の全国の定点当たりの報告数は11.18で、前週(8.07)より38.5%の増加となっており、2023年の同時期(11.04)とほぼ同程度となりました。都道府県別では、鹿児島県(31.75)が最も多く、次いで佐賀県(29.46)、宮崎県(29.34)の順でした。千葉県は12.77で、全国で15番目の多さであり、関東地方では最多でした。年齢階級別報告数では、報告数全体に占める10歳未満の割合が増加しており45.2%(報告数16,158例中7,311例)でした。また、全国のウイルスゲノムサーベイランスによる系統別検出状況は、第24週～第25週はKP.3.3系統が大多数を占めています。

千葉市の第29週は前週より増加し、8.29となりました。

2024年は年頭から増加し、第4週(11.86)でピークを迎えた後、第18週まで減少傾向でしたが、その後増加に転じました。2023年のデータがある第19週以降は、前年と比べて少ない状態で増加傾向が続いていましたが、第26週から増加率が大きくなり第29週は前年の同時期(8.96)とほぼ同等となりました(図1)。

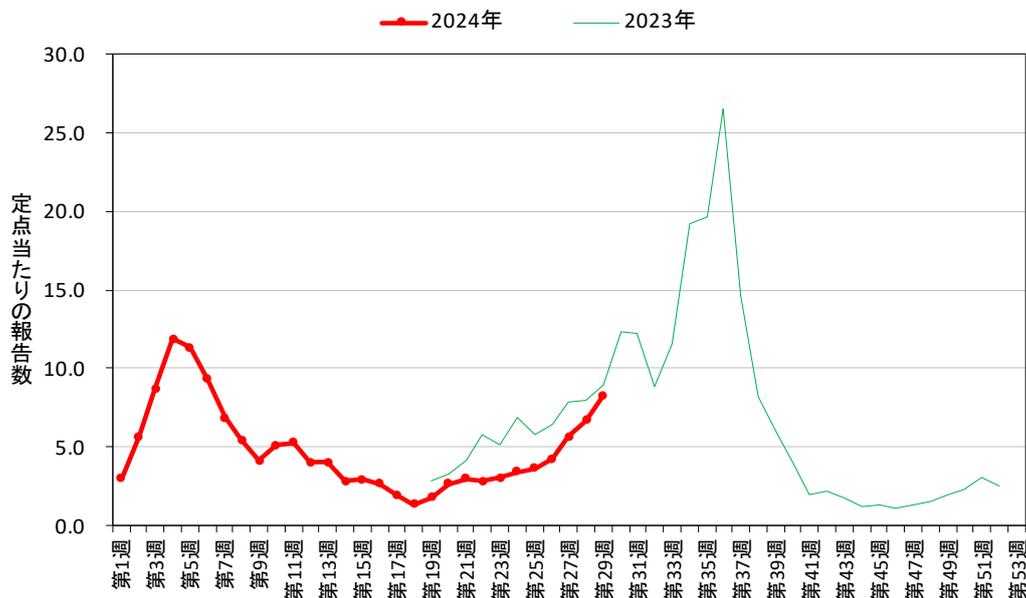


図1 年別・定点当たりの報告数

2024年第1週から第29週までの定点医療機関からの報告数は男性1,813例(45.9%)、女性2,140例(54.1%)の3,953例となっています。年代別では0歳代が最も多く(813例、20.6%)、次いで10歳代(635例、16.1%)、50歳代(512例、13.0%)の順となっています(図2)。報告数が最も多い0歳代では男児417例(51.3%)、女児396例(48.7%)で、年齢別では1歳(141例、20.2%)及び0歳(116例、16.6%)が100例を上回り多くなっています(図3)。

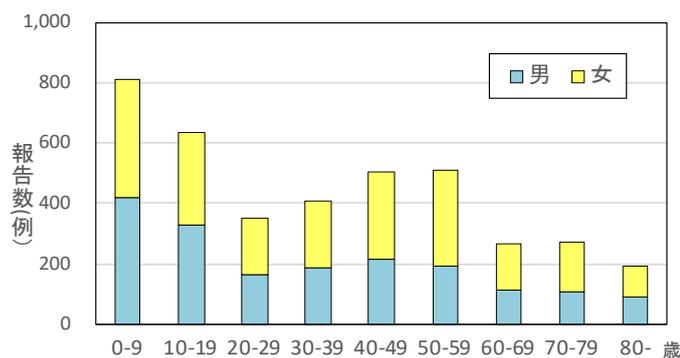


図2 性別・年代別
(2024年第1週-第29週 n=3,953)

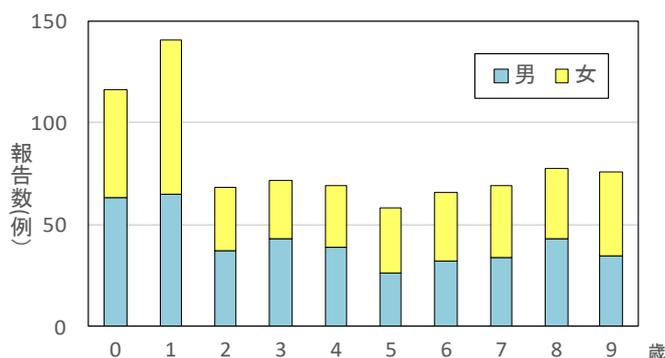


図3 性別・10歳未満年齢別
(2024年第1週-第29週 n=819)

直近4週の報告数は、年代別では60歳代を除き増加傾向となっており、第29週は0歳代～20歳代、40歳～50歳代で25例を上回りました(図4)。10歳未満の年齢別では、第28週以降、0歳の報告数が比較的多く、1歳は第29週に急増しました(図5)。

環境保健研究所で解析したウイルスゲノム系統別検出状況は、第20週以降BA.2の系統であるKP.3系統が殆どを占めており(74株中67株、90.5%)、第28週(8株)と第29週(7株)は全てKP.3.3となっています。

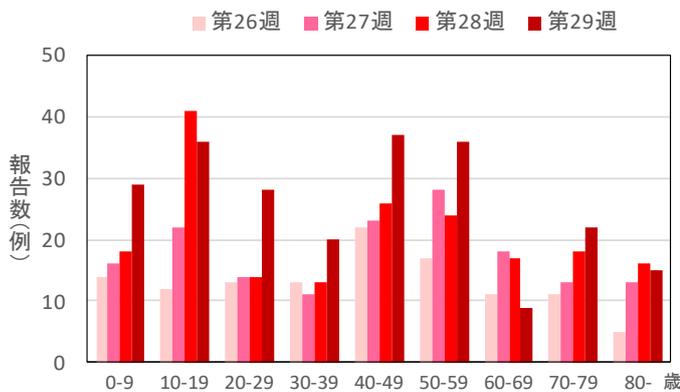


図4 週別・年代別報告数(直近4週分)

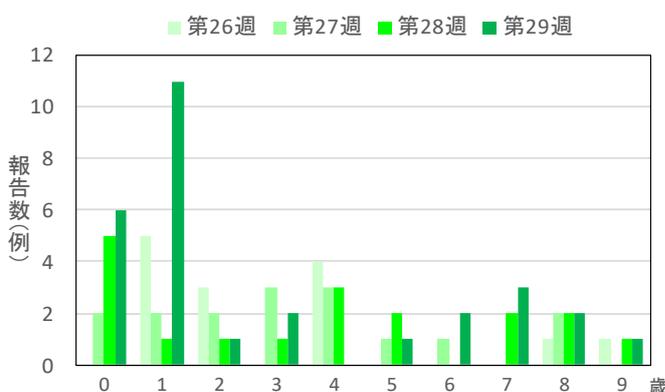


図5 週別・10歳未満年齢別報告数(直近4週分)

新型コロナウイルス感染症の夏の対策は、「換気」「手洗い・手指消毒」などの基本的な感染対策が有効です。高齢者や基礎疾患のある方が感染すると重症化リスクも高まりますので、通院や高齢者施設を訪問する時などは、感染予防としてマスクの着用が効果的です。

詳細は、下記URLをご参照ください。

「新型コロナウイルス感染症の基本的な感染対策について」

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/seisaku/covid-19_kansenntaisaku.html